

# 健康 第一

■ 2013 新年号 ■



当院の基本理念

## 地域社会との融和

基本方針

1. 地域社会に特色ある医療を担う。  
(女性医療・がん医療・腎臓病・生活習慣病に専門性を発揮する)
2. 利用者が納得する医療を提供する。
3. 心の通う医療を目指す。



## 新年のご挨拶

### 「Forward」

新年明けましてあめでとうございます。平素は皆様方にお世話になり感謝申し上げます。

昨年4月に病院長に就任し8カ月が経ちました。あっという間でした。慣れぬ管理職の仕事に一時期は体重が7kgも減ったのですが、残念ながら徐々に回復しつつあります。

さて、年末は慌ただしく衆議院選挙が行われ、自民党が圧勝し与党に返り咲きました。野党の経験をしたからか今回の自民党はパワーが増しているようにも見えます。振り返ってみると当院は、社会保険庁が解体し平成20年にRFO(独立行政法人年金・健康保険福祉施設整理機構)に移管されてからは常に政治に翻弄されてきました。ようやく平成26年4月、全国の社会保険病院・厚生年金病院・船員保険病院が一つとなり公設・公営の新機構である「地域医療機能推進機構」に移行します。辛い時間を経験したからこそ新しい力を出せるのではないかと考えています。

今年のKey wordは“前進しよう！”との思いをこめて「Forward」としました。(米国のオバマ大統領の就任演説から拝借です。)安全で優しい医療の提供とともに、如何に地域に貢献できるかを課題として職員一同で取り組んでまいります。また、職員にとっても魅力ある病院になるよう目指したいと思います。

本年3月末からは診療棟建設工事が本格的に始まります。患者様や近隣の方々には大変なご迷惑をおかけいたしますが、どうぞご容赦ください。

今年もよろしく願いいたします。



病院長  
田中 眞紀



## 就任のご挨拶

平成25年1月より社会保険久留米第一病院副院長に就任いたしました。私はこれまで産婦人科医療に携わってまいりました。特に「女性に優しい医療」(Gentle Care for Women's Health)をモットーに腹腔鏡手術を中心に傷が目立たない横切開、膣式手術などの低侵襲手術を行ってきました。最近では、子宮温存を希望される過多月経、子宮筋腫の患者さんに対してお腹を全く切らない子宮内膜アブレーション(MEA)を積極的に行っています。この治療は月経を起こす子宮内膜組織を凝固壊死させる手術で、子宮温存希望で月経が多い方に最適の治療法と言えます。昨年4月に先進医療から保険収載されましたが、九州で行っている施設は少なく最新の治療です。入院期間も1泊2日で術後の痛みもほとんどありません。



副院長  
畑瀬 哲郎

腹腔鏡手術を過去15年間に約2,000例行いましたが、合併症も少なく開腹手術に移行した症例は4例のみでした。最近では、臍部1カ所の孔で手術を行う単孔式腹腔鏡手術(TANKO)が注目を集めています。私も腹腔鏡下胆嚢摘出手術を単孔式で受けましたが、術後の回復も早く、傷もおへそのしわとなって目立たなくなりました。これまで行ってきた低侵襲手術を身をもって体験することができました。

本院は田中眞紀病院長のもと、乳腺外科を中心に女性外来を開設されその実績をあげられています。私がこれまで行ってきた「女性に優しい医療」(Gentle Care for Women's Health)と融合し、病院の発展に寄与できればと思っています。平成26年には新診療棟が完成予定ですし、筑後地区における中核病院の一つとしてさらに発展するために粉骨碎身がんばりたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。